

「通所リハビリテーションにて生活期脳卒中患者に反復性経頭蓋磁気刺激を実施し、歩行障害の改善を認め、その効果が持続した症例」

藤澤伸也<sup>1)</sup> 原寛美<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部

<sup>2)</sup> 医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院 高次脳機能リハビリテーションセンター

### 【目的】

生活期における歩行障害を呈した脳卒中患者に対し、高頻度経頭蓋磁気刺激法（以下、HFrTMS）と通所リハビリテーション（以下、通所リハ）を併用した臨床効果を検討する。

### 【方法】

症例は62歳の男性でH22.8月に右放線冠にラクナ梗塞を発症し、入院リハビリテーションを施行後、H23.2月に自宅退院となった。その後はH23.3月より医療保険での外来リハビリテーション（以下、通院リハ）を開始し、H27.3月より介護保険での通所リハに変更となったがすくみ足の歩行障害は悪化してきていた。

今回、週1回の通所リハ利用時に下肢の運動野に対して、HFrTMSを20分間実施。下肢のMotor Evoked Potentialを誘発するためdouble cone coilを用いて刺激。

HFrTMSを実施する前後に①10m歩行、②Timed Up and Go test（以下、TUG）の2項目を評価した。

評価期間は通所リハでHFrTMSを開始したH27.4.22～H28.5.25までとした。この期間に計10回のHFrTMSと計52回の通所リハを利用した。

尚、今回の研究は当院倫理委員会で臨床研究として承認され、同意書を得た。

### 【結果】

HFrTMS開始前の10m歩行では26.8秒、TUGは41.6秒であったが、計10回のHFrTMSと週1回の通所リハ終了時では、10m歩行は11.72秒、TUGは17.78秒であった。

また、HFrTMS終了後1カ月（＝5回）の10m歩行の平均は $14.2 \pm 1.6$ 秒、TUGは $25.9 \pm 4.9$ 秒であった。評価期間終了日から直近1カ月（＝5回）の10m歩行の平均は $11.8 \pm 0.4$ 秒、TUGは $17.1 \pm 0.5$ 秒であった。

### 【考察】

Chieffoら<sup>1)</sup>は10名の患者に対してCross Over Studyにて、HFrTMSを実施し、10m歩行に有意な向上があったとして、その効果は1カ月後も持続したと報告している。

症例は右放線冠ラクナ梗塞の発症後5年10ヶ月が経過しているが、通所リハで1週または2週に一度（計10回）のHFrTMS実施直後とその約10カ月後の10m歩行とTUGの比較では、数値が改善している傾向にあった。

HFrTMSの導入により、生活期の患者において週1回の通所リハ利用でも歩行能力の維持は可能であることが示唆された。